

水辺の住人1 「アメリカザリガニ」

仁徳天皇陵に至る芦ヶ池水路の水辺に位置する堺高校・・・サイエンス創造科の生徒からは日々、いろいろな観察報告が飛び込んできます。そんな本校の日常から、今回は子どもたちの人気者「アメリカザリガニ」の話を紹介します。

「(堺高生)先生、大丈夫ですかね？小さい子がザリガニ捕ってますけど・・・。」

初夏の水辺の和やかな光景・・・いったい何を生徒は心配するのでしょうか？実は、アメリカザリガニは水質が悪いところに住むタイプの生き物です。ですから、残念ながら現状の芦ヶ池水路の水質は水遊びに適した「きれいな水」だとは言いきくのです。

また、アメリカザリガニそのものが生き物として、大丈夫ではない存在です。雑食性で希少な水生昆虫や魚類を食べてしまうほか、水草を切断してしまうので他の生き物の産卵場所や隠れるところを奪い、生育環境を大きく変えてしまいます。結果として、在来の水生植物が消失することで濁った水質となり、美しい景観が破壊されることとなります。そのため、水辺のかなりヤバい奴ということで、生態系被害防止外来種リストにおいて、最も優先して対策される「緊急対策外来種」に位置づけられ、環境省と農林水産省から厳重にマークされています。

それでは、いったいアメリカザリガニはどこから日本に来たのでしょうか？元々、北アメリカ原産です。そもそも昔から、米国南部ではザリガニや食用ガエル等を調理して一般に食べてきました。芦ヶ池水路で見掛けるのはまさしくその「アメリカザリガニ」です。体長10cm位で、可食部は小さいですが、甲殻類です。養殖ザリガニは臭みもなく、エビ味で美味しいそうですよ。

また、アメリカザリガニ自体も食用ですが、食用カエルを養殖する場合はその餌にもなります。そこで、1927年、アメリカのニューオーリンズからザリガニを輸出産業化するためにお取り寄せしました。その数は・・・わずか27匹。そして、順調に養殖池で増えていきました。ところが、食用ガエルもザリガニも売れ行きは不調でビジネスとして成立しませんでした。結局、消費されることなく、ザリガニは池から逃げ出していき周囲に爆発的に拡散・・・遂には47都道府県の水辺を「**全国制覇!**」

水辺の覇権を握り、今ではすっかり日本の自然になじんだ存在となりました。

外来種被害予防三原則

「**入れない! 捨てない! 拡げない!**」

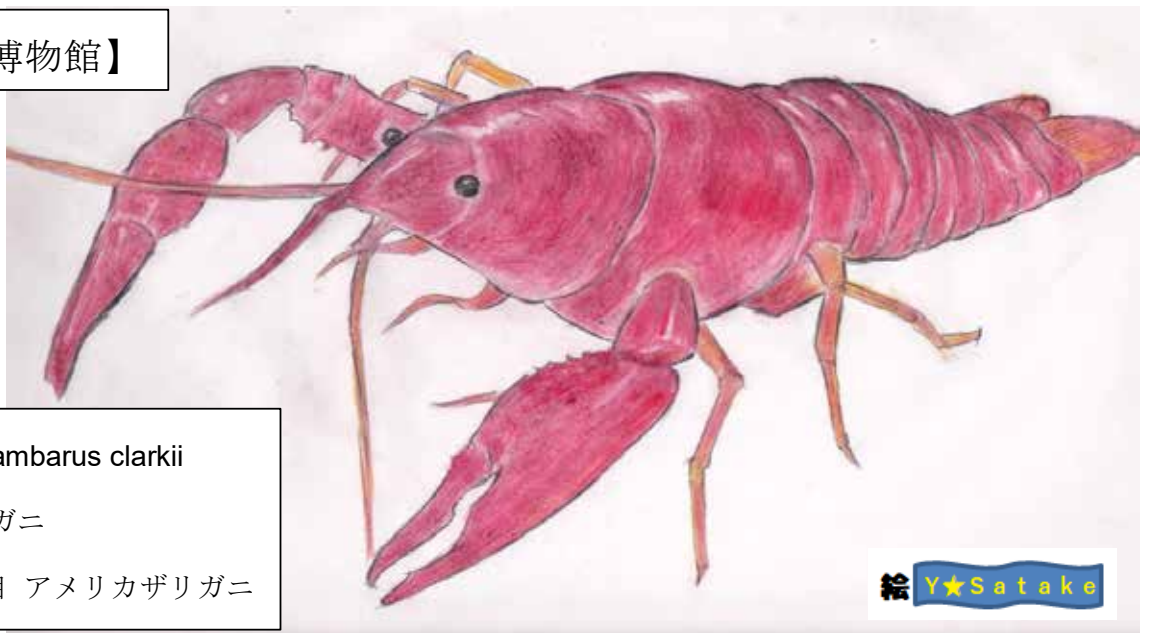
では、「アメリカザリガニ」とはどうつきあえばよいのでしょうか?

環境省の目標は生態系等への被害の防止です。そのために必要なことは、

- ・飽きて野外に放流したり、拡散することを防ぐ。
- ・生育・繁殖・侵入できないよう水辺の環境を保ち、個体数が増えないようにする。
- ・生物多様性保全の大切さを知る。

といったところでしょうか・・・。

【水辺の博物館】



学名： *Procambarus clarkii*

別名： ザリガニ

分類： エビ目 アメリカザリガニ

ふるさとの自然のために、一人ひとりが環境問題に向き合っていきたいですね。まずはザリガニ捕りの後はよく手足を洗うこと、採集したザリガニを野外へ放流、拡散しないこと、そんな身近なことからみんなで始めてみましようか。 (弥)